TOKYO 2020

TOKYO 2020
PARALYMPIC GAMES

日本語

TOKYO 2020

TOKYO 2020
PARALYMPIC GAMES

TOKYO 2020
GUIDEBOOK

東京 2020 大会 ガイドブック

みんなの輝き、つなげていこう。
Unity in Diversity

2020年、夏。
世界最大の祭典が再び東京にやってくる。

アスリートの輝きは世界中に広がり、
あらゆる人々をつなぎ、その瞬間、世界をひとつにする。

大会に参加したすべての人の輝きは、
かけがえのない財産となり、未来へつながっていく。

さあ、みんなの力で
オリンピック・パラリンピックを輝かせよう。

目次

1 大会概要 2
2 オリンピック競技 4
3 パラリンピック競技 6
4 会場計画 8
5 競技会場等 10
6 2回目のパラリンピック 14
7 復興オリンピック・パラリンピック 15
8 みんなで創る東京2020 16
9 東京2020参画プログラム 18
10 ボランティア 20
11 未来への継承 21

■ コラム 22
■ 東京2020大会マーケティングパートナー 24

1 大会概要
― 2020年、東京・日本は世界最高の舞台になる ―

東京1964大会から半世紀を経て、東京・日本に再びオリンピック・パラリンピックがやってきます。東京2020大会では、世界中から数多くの選手や大会関係者、観客が東京・日本を訪れます。大会を通じて、日本中、世界中に興奮と感動を呼び起こし、「記録」と「記憶」が人々の心にいつまでも残るすばらしい大会としていきます。

大会スケジュール

- 正式名称　**第32回オリンピック競技大会（2020／東京）**
- 開催期間　**2020年7月24日（金）～8月9日（日）**
- 競 技 数　**33**競技

- 正式名称　**東京2020パラリンピック競技大会**
- 開催期間　**2020年8月25日（火）～9月6日（日）**
- 競 技 数　**22**競技

世界最大のスポーツの祭典が東京にやってくる！

※ロンドン2012大会の実績（概数）

オリンピック・パラリンピックに参加する国と地域の数
オリンピック
204の国と地域
パラリンピック
164の国と地域

ボランティア数
70,000人
（大会ボランティア）
8,000人
（都市ボランティア）

開催都市を訪れた観客数
2,000万人
（ロンドン市民除く）

大会全体で提供された食事の数
オリンピック
1,400万食

大会ビジョン

スポーツには
世界と未来を変える力がある。

1964年の東京大会は日本を大きく変えた。
2020年の東京大会は、
「すべての人が自己ベストを目指し（全員が自己ベスト）」、
「一人ひとりが互いを認め合い（多様性と調和）」、
「そして、未来につなげよう（未来への継承）」
を3つの基本コンセプトとし、史上最もイノベーティブで、
世界にポジティブな改革をもたらす大会とする。

大会エンブレム

TOKYO 2020

TOKYO 2020 PARALYMPIC GAMES

組市松紋（くみいちまつもん）

- 「市松模様（いちまつもよう）」を、日本の伝統色である藍色で、粋な日本らしさを描きました。
- 形の異なる3種類の四角形を組み合わせ、「多様性と調和」のメッセージを込めました。
- オリンピックエンブレム、パラリンピックエンブレムとも、同じ45ピースの四角形から構成されています。

メダルの数
オリンピック
962個
パラリンピック
1,522個

テレビ配信総視聴者数
48億人

チケット売上額
オリンピック
1,041億**2,200**万円

チケット販売数
オリンピック
880万枚
パラリンピック
250万枚

選手数
オリンピック
10,500人
パラリンピック
4,237人

2 オリンピック競技

東京2020オリンピック競技大会では、33競技の開催が予定されています。本大会から、開催都市の組織委員会は、国際オリンピック委員会（IOC）に対し、その大会に限定した競技を追加実施する提案をすることができるようになりました。東京2020大会では、東京が提案した野球・ソフトボール、空手、スケートボード、スポーツクライミング、サーフィンの5競技全てがIOCに採択され、追加競技として実施することになりました。

水泳

アーチェリー

陸上競技

バドミントン

NEW
野球・ソフトボール ※1※2

バスケットボール

ボクシング

カヌー

自転車競技

馬術

フェンシング

サッカー

ゴルフ

凡例：NEW 東京2020組織委員会が提案し、新しく東京2020大会に追加された競技

体操

ハンドボール

ホッケー

柔道

NEW
空手

近代五種

ボート

ラグビー

セーリング

射撃

NEW
スケートボード ※3

NEW
スポーツクライミング ※4

NEW
サーフィン ※5

卓球

テコンドー

テニス

トライアスロン

バレーボール

ウエイトリフティング

レスリング

競技に関する詳細は、下記ホームページをご覧ください。
https://tokyo2020.jp/jp/games/sport/olympic/

写真提供：※1：© 世界野球ソフトボール連盟　※2：© 公益財団法人日本ソフトボール協会　※3：© 一般社団法人日本スケートボード協会　※4：© 国際スポーツクライミング連盟　※5：© 国際サーフィン連盟

3 パラリンピック競技

東京2020パラリンピック競技大会では、22競技の開催が予定されています。本大会から、バドミントンとテコンドーが実施競技として、国際パラリンピック委員会（IPC）に採用されました。

アーチェリー

バドミントン ※1

ボッチャ

カヌー

自転車競技

馬術

5人制サッカー

ゴールボール

柔道

パラ陸上競技

パラパワーリフティング

パラ水泳

ボート

パラ射撃

シッティングバレーボール

卓球

テコンドー ※2

トライアスロン

車いすバスケットボール

車いすフェンシング

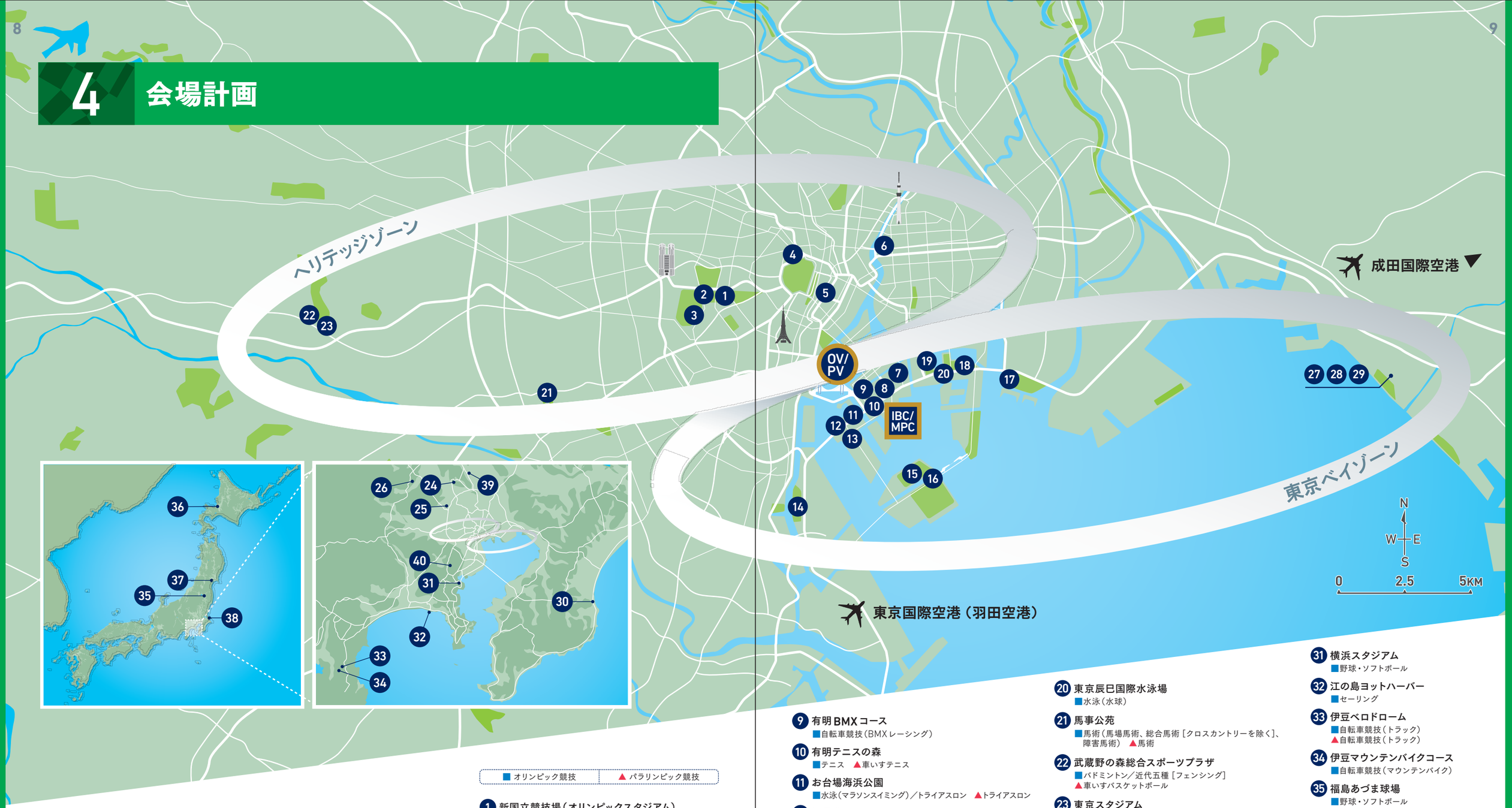
ウィルチェアーラグビー

車いすテニス

競技に関する詳細は、下記ホームページをご覧ください。
https://tokyo2020.jp/jp/games/sport/paralympic/

写真提供：※1：© 一般社団法人日本障がい者バドミントン連盟　※2：© 一般社団法人全日本テコンドー協会

4 会場計画



■ オリンピック競技　▲ パラリンピック競技

1 新国立競技場（オリンピックスタジアム）
■開会式・閉会式／陸上競技／サッカー
▲開会式・閉会式／パラ陸上競技

2 東京体育館
■卓球　▲卓球

3 国立代々木競技場
■ハンドボール　▲バドミントン／ウィルチェアーラグビー

4 日本武道館
■柔道／空手　▲柔道

5 東京国際フォーラム
■ウエイトリフティング　▲パラパワーリフティング

6 国技館
■ボクシング

7 有明アリーナ
■バレーボール（バレーボール）　▲車いすバスケットボール

8 有明体操競技場
■体操　▲ボッチャ

9 有明BMXコース
■自転車競技（BMXレーシング）

10 有明テニスの森
■テニス　▲車いすテニス

11 お台場海浜公園
■水泳（マラソンスイミング）／トライアスロン　▲トライアスロン

12 潮風公園
■バレーボール（ビーチバレーボール）

13 青海アーバンスポーツ会場
■スケートボード／スポーツクライミング
▲5人制サッカー

14 大井ホッケー競技場
■ホッケー

15 海の森クロスカントリーコース
■馬術（総合馬術［クロスカントリー］）

16 海の森水上競技場
■カヌー（スプリント）／ボート　▲カヌー／ボート

17 カヌー・スラローム会場
■カヌー（スラローム）

18 アーチェリー会場（夢の島公園）
■アーチェリー　▲アーチェリー

19 オリンピックアクアティクスセンター
■水泳（競泳、飛込、シンクロナイズドスイミング）　▲パラ水泳

20 東京辰巳国際水泳場
■水泳（水球）

21 馬事公苑
■馬術（馬場馬術、総合馬術［クロスカントリーを除く］、障害馬術）　▲馬術

22 武蔵野の森総合スポーツプラザ
■バドミントン／近代五種［フェンシング］
▲車いすバスケットボール

23 東京スタジアム
■サッカー／近代五種［水泳、馬術、ランニング、射撃］／ラグビー

24 さいたまスーパーアリーナ
■バスケットボール（バスケットボール）

25 陸上自衛隊朝霞訓練場
■射撃　▲パラ射撃

26 霞ヶ関カンツリー倶楽部
■ゴルフ

27 幕張メッセ　Aホール
■テコンドー／レスリング　▲シッティングバレーボール

28 幕張メッセ　Bホール
■フェンシング　▲テコンドー／車いすフェンシング

29 幕張メッセ　Cホール
▲ゴールボール

30 釣ヶ崎海岸サーフィン会場
■サーフィン

31 横浜スタジアム
■野球・ソフトボール

32 江の島ヨットハーバー
■セーリング

33 伊豆ベロドローム
■自転車競技（トラック）
▲自転車競技（トラック）

34 伊豆マウンテンバイクコース
■自転車競技（マウンテンバイク）

35 福島あづま球場
■野球・ソフトボール

36 札幌ドーム
■サッカー

37 宮城スタジアム
■サッカー

38 茨城カシマスタジアム
■サッカー

39 埼玉スタジアム2002
■サッカー

40 横浜国際総合競技場
■サッカー

OV/PV 選手村

IBC/MPC IBC/MPC（東京ビッグサイト）

調整中
■バスケットボール（3 x 3）
■自転車競技（ロード、BMXフリースタイル）
▲自転車競技（ロード）

（本冊子記載の情報は2017年7月現在のものです）

会場計画コンセプト

Infinite Excitement
― 無限の可能性 ―

東京2020大会の会場計画は、東京1964大会のレガシーを引き継ぐ「ヘリテッジゾーン」、都市の未来を象徴する「東京ベイゾーン」の2つのゾーンから構成されています。選手村を中心に広がる2つのゾーンは、無限大の記号をイメージさせます。東京2020大会を通じて、トップアスリートが灯した情熱と、次世代へつながる可能性、そして語りつがれるレガシーが無限に広がっていくことを表しています。

5 競技会場等

東京2020大会は、新規施設の他、東京1964大会のレガシー施設を含む多くの既存施設なども活用して、都内外の40会場で開催します。

■ オリンピック競技　▲ パラリンピック競技

1 新国立競技場（オリンピックスタジアム）

■開会式・閉会式／陸上競技／サッカー
▲開会式・閉会式／パラ陸上競技

東京1964大会のオリンピックスタジアムであった国立競技場が、2020年までに新しい競技場に生まれ変わります。東京2020大会では、開・閉会式のほか、陸上競技やサッカーが行われます。大会後は各種スポーツ・文化関連イベントに使用される予定です。

大成建設・梓設計・隈研吾建築都市設計事務所 JV 作成／JSC 提供

2 東京体育館

■卓球
▲卓球

東京1964大会時に、メインアリーナで体操競技、屋内プールで水球が開催されました。1964年のオリンピックレガシーを有する施設の1つです。

3 国立代々木競技場

■ハンドボール
▲バドミントン／ウィルチェアーラグビー

東京1964大会時に水泳とバスケットボールの競技会場として使用するため、整備された施設です。高張力による吊り屋根に特徴がある建物で、現在でもオリンピックレガシーとして世界的に高い評価を受けています。

4 日本武道館

■柔道／空手
▲柔道

柔道をはじめとする日本の武道の聖地です。東京1964大会では、柔道がオリンピック競技として初めて実施され、この施設で開催されました。

5 東京国際フォーラム

■ウエイトリフティング
▲パラパワーリフティング

巨大な舟形のアトリウム空間を持つガラス棟がシンボリックな建物です。総合的な文化情報発信拠点として、大小8つのホールなどを備えています。

6 国技館

■ボクシング

日本の国技である相撲の聖地です。館内がすり鉢状になっており、観客は四方から中央で行われる競技を観戦することができます。

2015年10月時点のイメージ図

7 有明アリーナ

■バレーボール（バレーボール）
▲車いすバスケットボール

有明北地区に新しく整備されるアリーナです。大会後は、15,000席の規模を活かし、東京の新たなスポーツ・文化発信拠点としていきます。

2016年3月時点のイメージ図

8 有明体操競技場

■体操
▲ボッチャ

有明北地区に仮設で整備される会場です。大会時には、約12,000人の客席数を有する競技場が建設される予定です。

リオ2016大会の会場写真

9 有明BMXコース

■自転車競技（BMXレーシング）

選手村からも近いウォーターフロントエリアの有明北地区に仮設でコースが整備されます。約5,000席の観客席が設けられる予定です。

10 有明テニスの森

■テニス
▲車いすテニス

このエリアは、日本のテニスの聖地と言われています。緑に囲まれた敷地に屋外48面のテニスコートと「有明コロシアム」を備えています。

11 お台場海浜公園

■水泳（マラソンスイミング）／トライアスロン
▲トライアスロン

海や緑の自然と、レインボーブリッジなどの未来的景観が融合した観光スポットである台場地区にある公園です。大会時には、仮設で競技会場が整備されます。

12 潮風公園

■バレーボール（ビーチバレーボール）

ウォーターフロントの象徴であるレインボーブリッジを背景に、東京湾の美しい景色を眺めることができる公園です。大会時には仮設で競技会場が整備されます。

13 青海アーバンスポーツ会場

■スケートボード／スポーツクライミング
▲5人制サッカー

選手村からも近い青海エリアの敷地に、仮設で整備される会場です。東京2020大会のオリンピック追加競技が2つ行われます。

2016年6月時点のイメージ図

14 大井ホッケー競技場

■ホッケー

大井ふ頭中央海浜公園に整備される施設です。大会後は、ホッケーをはじめ様々なスポーツを楽しめる多目的球技場としていきます。

リオ2016大会の会場写真／Photo by IOC

15 海の森クロスカントリーコース

■馬術（総合馬術［クロスカントリー］）

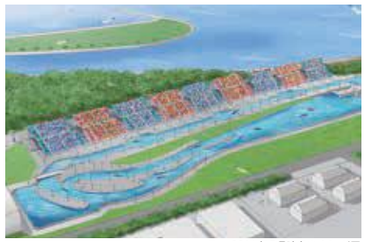
東京湾のすばらしい眺めとドラマチックな都市景観を一度に楽しむことができる埋立地です。大会時には、馬術のクロスカントリーコースが仮設で整備されます。

2016年5月時点のイメージ図

16 海の森水上競技場

■カヌー（スプリント）／ボート
▲カヌー／ボート

都心に近い東京の臨海部に新しく整備される施設です。大会後は、アジアの水上競技の中心となる国際水準の競技場としていきます。



2016年5月時点のイメージ図

17 カヌー・スラローム会場

■カヌー（スラローム）

葛西臨海公園の隣接地に新しく整備される国内初の人工コースの施設です。大会後は、様々な水上スポーツ・レジャーを楽しむ施設としていきます。

18 アーチェリー会場（夢の島公園）

■アーチェリー
▲アーチェリー

夢の島公園内にアーチェリー会場を整備します。大会後は、アーチェリーを中心に、多様な活用の機会を提供する施設としていきます。

2015年10月時点のイメージ図

19 オリンピックアクアティクスセンター

■水泳（競泳、飛込、シンクロナイズドスイミング）
▲パラ水泳

辰巳の森海浜公園に新しく整備される施設です。大会後は、日本水泳の中心となる世界最高水準の水泳場としていきます。

20 東京辰巳国際水泳場
■水泳（水球）

東京都における水泳の中心的・象徴的施設としての役割を担う広域的な専門施設として設置されました。

21 馬事公苑
■馬術（馬場馬術、総合馬術［クロスカントリーを除く］、障害馬術）　▲馬術

東京1964大会時に馬術が行われた場所です。1964年のオリンピックレガシーを有する施設の1つです。現在は、馬事普及拠点になっています。

22 武蔵野の森総合スポーツプラザ
■バドミントン／近代五種［フェンシング］
▲車いすバスケットボール

東京スタジアムに隣接する場所に新しく整備される施設です。10,000人以上収容可能なメインアリーナなどを有する総合スポーツ施設です。

23 東京スタジアム
■サッカー／近代五種［水泳、馬術、ランニング、射撃］／ラグビー

サッカーをはじめ、多彩なイベントに利用されている多目的スタジアムです。

24 さいたまスーパーアリーナ
■バスケットボール（バスケットボール）

スポーツイベント、コンサート、講演会などさまざまな用途に対応した国内最大級の多目的ホールです。埼玉県さいたま市にあります。

25 陸上自衛隊朝霞訓練場
■射撃
▲パラ射撃

東京1964大会時にも、この訓練場でライフル射撃競技が行われました。大会時には、オリンピック基準に適合した射撃の仮設施設が整備されます。

26 霞ヶ関カンツリー倶楽部
■ゴルフ

緑豊かな武蔵野丘陵に広がるゴルフ場です。ゴルフ伝承の一端を担う設計者により設計された、80年以上の歴史を誇る施設です。埼玉県川越市にあります。

27 28 29 幕張メッセ
■テコンドー／レスリング／フェンシング
▲シッティングバレーボール／テコンドー／車いすフェンシング／ゴールボール

210,000㎡の敷地に「国際展示場」「国際会議場」「幕張イベントホール」の3施設で構成される複合コンベンション施設です。千葉県千葉市にあります。

30 釣ヶ崎海岸サーフィン会場
■サーフィン

「世界最高レベル」ともいわれる良質な波を求めて多くのサーファーが訪れる海岸です。東京2020大会追加競技が行われます。千葉県長生郡一宮町にあります。

31 横浜スタジアム
■野球・ソフトボール

横浜公園内にある日本初の多目的スタジアムです。日本のプロ野球チームの本拠地にもなっています。東京2020大会追加競技が行われます。神奈川県横浜市にあります。

32 江の島ヨットハーバー
■セーリング

東京1964大会時に使用するため、整備された日本初の競技用ハーバーです。1964年のオリンピックレガシーを有する施設の1つです。神奈川県藤沢市にあります。

33 伊豆ベロドローム
■自転車競技（トラック）
▲自転車競技（トラック）

国際自転車競技連合（UCI）規格の周長250m木製走路を有する屋内型自転車トラック競技施設です。静岡県伊豆市にあります。

■オリンピック競技　▲パラリンピック競技

© 日本サイクルスポーツセンター

34 伊豆マウンテンバイクコース
■自転車競技（マウンテンバイク）

全長2,500m、高低差が85mあるオフロードコースです。静岡県伊豆市にあります。

35 福島あづま球場
■野球・ソフトボール

「スポーツを楽しむ」「自然と憩い」「家族で楽しむ」「歴史散策」の4つのエリアを有する総合運動公園内にある野球場です。東京2020大会追加競技が行われます。福島県福島市にあります。

36 札幌ドーム
■サッカー

サッカーと野球のプロチーム2つの本拠地にもなっている施設です。日本最北にある全天候型ドームスタジアムです。北海道札幌市にあります。

37 宮城スタジアム
■サッカー

スタジアムの観客席を覆う大屋根は、仙台藩主「伊達政宗公」の兜飾りの三日月をデザインしています。陸上競技場兼サッカー球技場です。宮城県宮城郡利府町にあります。

38 茨城カシマスタジアム
■サッカー

本格的なサッカー専用スタジアムで、常緑の天然芝フィールドとスタンドのどこからでも観戦しやすい観客席を有しています。プロサッカーチームの本拠地にもなっています。茨城県鹿嶋市にあります。

39 埼玉スタジアム2002
■サッカー

アジア最大級・日本で最大のサッカー専用スタジアムです。埼玉県さいたま市にあります。

40 横浜国際総合競技場
■サッカー

日本最大規模の72,327席の観客収容能力を誇る屋外多目的競技場です。神奈川県横浜市にあります。

IBC/MPC（東京ビッグサイト）

約265,700㎡の敷地に、展示ホール、国際会議場、レセプションホールなどを備える日本最大のコンベンション施設です。大会時には、報道・放送センターになります。

東京2020大会後の選手村

2016年8月時点のイメージ図
© 晴海五丁目西地区第一種市街地再開発事業特定建築者

OV/PV 選手村

東京都中央区晴海に整備される選手村の宿泊棟については、東京都が施行する市街地再開発事業において民間事業者が整備する住宅棟を、大会期間中に一時使用する計画となっています。大会後、住宅棟は改修し、新たに建築する高層棟とともに分譲等を行う予定となっています。

6 2回目のパラリンピック

東京は、世界で初めて2回目の夏季パラリンピックを開催する都市であり、東京2020大会は、ダイバーシティ実現の大きな契機となる大会です。障がいの有無に関わらず世界中からあらゆる人が集い、そして障がいのある選手たちの圧倒的なパフォーマンスを直に目にすることができるパラリンピックは、すべての人がお互いの人権や尊厳を大切にし、支え合う共生社会の実現にむけて、社会のあり方を大きく変える力があります。

1964

「パラリンピック」という名称は、「オリンピック開催年にオリンピック開催国で行われる国際ストーク・マンデビル大会」＝「Paraplegia（対まひ者）」の「Olympic」＝「Paralympic」という発想から、東京1964大会の際に日本で名付けられた愛称でした。東京1964大会は、我が国の障がいのある方々の社会参加や自立を促す契機となりました。

提供：JPC

提供：JBFA　　提供：エックスワン

東京2020大会では、パラリンピックを成功させるとともに、都市のバリアフリー化や心のバリアフリーの浸透など、ハード・ソフト両面での取組を進め、障がいの有無に関わらず、誰もが生き生きと暮らせる都市を作り上げていきます。

2020

「NO LIMITS CHALLENGE」ノーリミッツチャレンジ
― パラリンピックの魅力を体感しよう ―

パラリンピック競技の体験を中心としたイベントです。

「失われたものを数えるな、残された機能を最大限に活かせ」という「パラアスリートの無限の可能性の追求」を表現する「**NO LIMITS**」。

参加型イベントであることを想起させる「**CHALLENGE**」。この2つの言葉に由来しています。

パラリンピック競技を体験し、その魅力に触れてみよう！

迫力のパラリンピック競技を街中で披露

障がいの有無に関係なくみんなで楽しめます

詳しくはこちら
http://no-limits.tokyo/

― 東京都の取組 ―
「TEAM BEYOND」チームビヨンド

パラスポーツを通じて、みんなが個性を発揮できる未来を目指す取組です。

誰でもチームの一員になることが出来ます。あなたもパラスポーツで未来を変えましょう！

TEAM BEYOND

詳しくはこちら
https://www.para-sports.tokyo/

7 復興オリンピック・パラリンピック

2011年に始まった東京2020大会の招致活動では、スポーツの力が東日本大震災の被災地に夢と希望をもたらすことを訴えました。東日本大震災から10年目となる東京2020大会に向けて、スポーツの力で被災地に元気を届けます。また、様々な困難を乗り越え、復興へと歩む被災地の姿を世界に発信していきます。そして、大会を通じて、被災地の人々に大きな感動を届けるとともに、被災地を支援していただいた世界の人々に感謝を伝えていきます。

東京2020大会では、被災地でのサッカーと野球・ソフトボールの開催、ライブサイト、文化プログラムなどが予定されています。是非、東北に足を運んでください。

サッカー：宮城スタジアム

オリンピック競技の開催

ライブサイト　文化プログラム　聖火リレー

事前キャンプ　フラッグツアー

野球・ソフトボール：福島あづま球場

「2020年。東京と東北で会いましょう。」

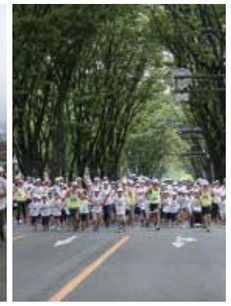
スポーツを通じて元気を取り戻しつつある被災地の姿を収めた映像をご覧いただけます。

http://www.2020games.metro.tokyo.jp/taikaijyunbi/kanren/hisaiti/

スポーツの力で被災地を元気に

「未来（あした）への道　1000km縦断リレー」

全国と被災地との絆を深めるため、青森から東京まで、東日本大震災の被災地をランニングと自転車でつなぐリレーを開催しています。



「若手アスリート参画プロジェクト」

地域の児童や保護者とのスポーツ交流等による被災地復興支援を目的に、若手アスリートとともに被災地で様々な活動を行なっています。

福島県や熊本県を訪問し、小学校の運動会への参加やイベントなどを実施しています

8 みんなで創る東京2020

2020年に向けて、東京2020大会を身近に感じることができる多彩なイベントが行われます。みんなで参加し、一体感のある楽しい大会を、一緒に創り上げていきましょう。

2013.9.7
東京2020大会開催決定！

IOCロゲ会長（当時）による発表

2016.8-9
リオ2016大会 フラッグハンドオーバー

リオ2016大会閉会式で、次回開催都市である東京都が、オリンピックフラッグ・パラリンピックフラッグを引き継ぎました。

オリンピックフラッグ

パラリンピックフラッグ

カウントダウンイベント

2020年開幕までの節目ごとに、カウントダウンのイベントを実施します。

都民ひろばで700名が参加し、人文字でカウントダウン表示

45のピースをみんなで動かし、大きな東京2020パラリンピックエンブレムをつくりました

都市鉱山からつくる！ みんなのメダルプロジェクト

► 詳細はP19へ

本プロジェクト発表記者会見

アスリートとの交流

東京2020大会に向けて、オリンピアン・パラリンピアンをはじめとしたアスリートたちとのさまざまな交流機会を設けています。

ふれあいを通して、アスリートたちの卓越した能力を実感し、オリンピック・パラリンピックに対する期待を高めることにつながります。

日本代表選手からシッティングバレーボールの極意を直に教わり、一緒にプレー

オリンピアンによるリレー教室で見事なバトンパスを間近に体験

2015

エンブレムの決定

2016

東京2020参画プログラム開始
► 詳細はP18へ

2017

マスコットの発表

2018

ボランティアの募集
► 詳細はP20へ

2019

チケットの販売

2020

東京2020大会へ

フラッグツアー

リオから引き継いだフラッグは、都内、被災地を経て、2017年から全国を巡回します。

リオ2016大会のメダリストが都民のもとへフラッグを運びました

大勢の都民がフラッグの到着を歓迎しました

ライブサイト

大会期間中、ライブサイト会場内に設置される大型ビジョンで、競技会場での白熱する試合の生中継を楽しむことができます。

また、ステージイベントや競技体験等も行われます。

大迫力の大型ビジョンと多彩な催しが楽しめるステージ

大会実施競技の体験コーナー

聖火リレー

オリンピック聖火リレーは、ギリシャ・オリンピアの太陽光で採火された炎を、ギリシャ国内と日本国内でリレーによって開会式までつなげていきます。

パラリンピック聖火リレーでは、イギリスのストーク・マンデビルと、日本国内数か所で聖火フェスティバルを行い、東京に集火して聖火リレーを行います。

リオ2016大会では、パラリンピック殿堂入りを果たした河合純一氏が聖火ランナーを務めました

テストイベント

各競技会場では、大会本番に向けたテストイベントとして競技会が開かれます。

東京2020フェスティバル（仮称）

大会直前は、文化イベントをはじめとする各種イベントが集中的に実施され、本番に向けた最高潮の盛り上がりをつくります。

9 東京2020参画プログラム
― 8つのテーマで、みんなをつなぐ、動かす、そして未来へ ―

東京2020大会は、日本や世界に対し、スポーツだけでなく、文化・教育・経済など、様々な分野で有形・無形のポジティブなレガシーを残す大会を目指しています。2020年に向けて、多くの方が参画（アクション）し、その成果を未来に継承する（レガシー）ため、オールジャパンで取り組む参加型プログラムである「東京2020参画プログラム」を策定しました。様々な主催者により、多様なイベントや事業が展開されます。

大会ビジョンと同じ理念を持ったイベントが、全国各地で開催されます。
東京2020大会関係団体や非営利団体等によって、スポーツだけでなく、文化芸術や地域での世代を超えた活動、被災地への支援など、8つのテーマに分類される活動が、2つのマークのもとで実施されます。

8つのテーマ

スポーツ・健康	街づくり	持続可能性	文化
教育	経済・テクノロジー	復興	オールジャパン・世界への発信

東京2020公認マーク

国、東京都、大会会場施設を持つ自治体、大会パートナー等によるアクションに付与されます。

公認プログラム

東京2020応援マーク

左記以外の非営利団体等によるアクションに付与されます。

TOKYO 2020
応援プログラム

**あなたの街や地域でこのマークを見つけたら、
それは東京2020大会とつながっている証です。
ぜひ、ご参加ください！**

詳細は、HPをご覧ください。

事業・イベントの認証について
https://tokyo2020.jp/jp/get-involved/certification/organizer/

今後の参画プログラムイベントの予定
https://tokyo2020.jp/jp/get-involved/certification/event/

お問い合わせ先：東京2020参画プログラム　コールセンター　（TEL: 0570-00-6620（有料））
受付時間　9:00~17:00（土日祝日、年末年始を除く）

持続可能性プログラム

国際オリンピック委員会（IOC）は、オリンピックにおいて持続可能性を重視する方針を打ち出しています。東京2020大会では、持続可能性に配慮したアクションが始まっています。

都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト

このプロジェクトでは、皆様から頂いた携帯電話をはじめとした小型家電等から抽出されるリサイクル金属を活用して、東京2020大会の入賞メダルを製作します。回収の受付は、全国のドコモショップ・プロジェクト参加自治体等で行っております。

日本・英国の競泳選手から、不要になった携帯電話を提供いただきました

詳細はこちら
https://tokyo2020.jp/jp/games/medals/project/

東京2020教育プログラム「ようい、ドン！」

東京2020大会ビジョンやオリンピック精神・パラリンピックの価値等に基づいた教育プログラムが、学校現場をはじめとして、全国各地で展開されます。次世代を担う子ども・若者にかけがえのない経験を提供します。

都内の小・中・高校生がおよそ1,250人参加した「東京2020オリンピック・パラリンピック教育フェスティバル」

参加した子どもたちは、普段経験できないパラスポーツを体験し、様々な競技の魅力ややさしさに触れました

オリンピック・パラリンピックの調べ学習

東京都内全公立学校で、2016年4月から、オリンピック・パラリンピックの教育プログラムが実施されています。

詳細はこちら
https://www.o.p.edu.metro.tokyo.jp/about-education

「ようい、ドン！」とは

東京2020教育プログラムの愛称。日本語で、学校における徒競走のスタートや、何か物事を始めるときに使っている言葉であり、大会ビジョンの実現に向けて、次世代を担う子どもや若者がみんなでスタートを切って、みんなで一緒にやろうという思いを込めています。

東京2020文化プログラム「東京2020文化オリンピアード」

オリンピック・パラリンピックは文化の祭典でもあります。全国各地において、あらゆる人々が参加できる多様な文化プログラムが展開されます。また、多くの若者に文化芸術への参加を促進することで、創造性を育成していきます。

国内外へ向けて東京2020文化オリンピアードのキックオフを宣言した「幕開き（まくあき）日本橋ー東京2020文化オリンピアードキックオフー」

10 ボランティア
― みんなで大会を支えよう ―

世界の200以上の国・地域から選手や大会関係者が参加するほか、多数の観客が日本を訪れる東京2020大会の成功には、ボランティアの存在が欠かせません。また、ボランティア活動への参加を通じて、多くの人と一丸となって大会を創り上げるという、他では決して得られない感動を体験することができます。

東京2020大会では、大会ボランティアと都市ボランティアを合わせて、9万人以上の活躍を想定しています。

大会ボランティア

主に大会開催前後及び期間中、競技会場や選手村などの大会関係施設で、選手や大会関係者、観客等に対する、会場内での案内・誘導など、大会運営をサポートする役割を果たします。

また、大会の雰囲気づくりの一翼を担います。

運営・募集 東京2020組織委員会

募集開始 2018年夏頃予定

詳細は、HPをご覧ください。
https://tokyo2020.jp/jp/get-involved/volunteer/

コース整備をサポート

ヘルプデスクで来場者をサポート

ランナーの給水をサポート

会場周辺で観客を案内

都市ボランティア

大会期間中、空港や主要駅・観光地等において、国内外からの旅行者に対する観光・交通案内や、競技会場の最寄駅周辺における観客への案内等を行います。

開催都市の顔として、選手や大会関係者、国内外からの旅行者・観客等を「おもてなしの心」をもって、お迎えする役割を果たします。

また、大会盛り上げの一翼を担います。

運営・募集 東京都
競技会場を有する自治体

募集開始 2018年夏頃予定
（都では一部
先行募集があります。）

詳細は、HPをご覧ください。
http://www.city-volunteer.metro.tokyo.jp/

駅の出口で観客をサポート
©フォート・キシモト

会場までの道順を案内

11 未来への継承

東京2020大会では、子ども・若者をスポーツと、オリンピック・パラリンピックとつなぎ、オリンピック・パラリンピックの価値を一層高め、次世代に継承していくために、様々な取組を行なっています。

大会マスコットの選考過程への参画

大会マスコットは、選手や訪問客を歓迎し、子どもやファンの興奮をかきたて、オリンピック・パラリンピックの精神を伝え、東京2020大会ならではのメッセージを伝えるアンバサダーの役割を担います。

東京2020大会では、大会マスコットが特に子どもから愛される存在となれるよう、皆様から応募いただいたデザインの選考過程において、全国の小学校のクラス単位での投票を行う予定です。

詳細は、HPをご覧ください。
https://tokyo2020.jp/jp/games/mascot/

いままで生み出された大会マスコットの一例

小中学生からのポスター募集

小中学生の東京2020大会に対する興味関心の向上のため、オリンピック・パラリンピック等をテーマとしたポスターを募集しています。2015年度から開始した本事業は、2020年、東京や日本、自分がどのようになっているのかを考えるきっかけとなっています。

2016年度は、国内外から約2万6千点の応募があり、優秀作品の表彰も実施しました。

※募集期間は、毎年夏休み前後を予定しています。
詳細は、HPをご覧ください。
https://tokyo2020.jp/jp/get-involved/event/poster2016/

小中学生ポスター募集事業の公開授業を実施
会場：福島県郡山市立行健（こうけん）中学校

大学連携 ― 学生の力で盛り上げよう ―

東京2020大会を通して、オリンピック・パラリンピック教育が広がっていくこと、多くの学生が一生に一度の経験を得ること、そして、大学・短期大学に知識や経験のレガシーが残っていくこと等を目的とし、次世代の新たな価値を創造・発信していくため、全国約7割の大学・短期大学と連携協定を締結し、学生や大学とともに様々な活動やエンゲージメントの推進に取り組んでいます。

詳細は、HPをご覧ください。
https://tokyo2020.jp/jp/get-involved/university/

「大学連携 学生のためのRio to Tokyo」　会場：上智大学

TOKYO 2020 ID

「TOKYO 2020 ID」に登録して、東京2020組織委員会公式メールマガジン「TOKYO 2020 マガジン」を購読しよう！

TOKYO 2020 ID
https://id.tokyo2020.jp/

東京2020オフィシャルオンラインショップ

東京2020公式ライセンス商品等を多数取り扱っています。

お問い合わせ先
商品カスタマーセンター（TEL03-3520-9200）
受付時間　10:00~18:00（土日祝日、年末年始を除く）

東京2020オフィシャル
オンラインショップ
https://tokyo2020shop.jp/

コラム

オリンピック・パラリンピックのことをもっと深く知ろう

※「オリンピック・パラリンピック学習読本」　中学校編及び高等学校編（東京都教育委員会発行）から一部引用

参加することに意義がある

クーベルタン男爵
©フォート・キシモト

近代オリンピックの父と呼ばれている、クーベルタンの格言として有名な「オリンピックで重要なことは勝つことではなく参加することである」という言葉は彼の格言ではありません。

ロンドン1908大会当時行われていた綱引き競技を初め、多くの種目で英米両チームが対立していました。そのためセントポール大聖堂において、礼拝に参加した選手達を前に、ペンシルバニアのエチューバード・エルボット主教が、「オリンピックの理想は人間をつくることであり、オリンピックに参加することは人と付き合うこと、すなわち世界平和の意味を含んでいる」と戒めの言葉を述べました。

同様に考えていたクーベルタンは主教の言葉に感動して、英政府主催の晩餐会で主教の言葉を引用し、「人生にとって大切なことは成功することではなく努力することである」と付け加えました。

以後、この言葉はオリンピックの理想を表現するクーベルタンの格言として知られるようになりました。

選手村

東京1964大会当時の選手村
©フォート・キシモト

選手村の始まりは、パリ1924大会に遡ります。選手たちが宿泊先に困らないよう、木造のコテージを建設したのが始まりです。

その後ロサンゼルス1932大会で、大規模な宿泊施設を準備したところ、参加選手たちの負担が軽くなると好評でした。そこで、第二次世界大戦後の1947年に発表された「オリンピック憲章」で選手村の設置が義務付けられ、ヘルシンキ1952大会から選手村が誕生しました。

東京1964大会では代々木ワシントンハイツの跡地に選手村がつくられました。代々木本村は、5,900人を収容する施設でした。

現在は、代々木公園や国立オリンピック記念青少年総合センターとして利用されています。

聖火リレーのはじまり

採火式

近代オリンピックでは、パリ1924大会まで聖火はありませんでした。

アムステルダム1928大会の際、スタジアムの外に塔を設置し、そこに火を灯し続けるという案が採用されたことが契機となり、現在のような聖火が誕生しました。

聖火は、大会の数か月前に古代オリンピックの聖地であるオリンピアの遺跡ヘラ神殿前で採火され、多くの人によって開催地まで運ばれ、開会式当日、最終ランナーによってメインスタジアムの聖火台に点火され、大会が終わるまで灯し続けられます。

東京1964大会の最終聖火ランナー
©フォート・キシモト

東京1964大会では、様々な議論の末、最終ランナーを若い選手に任せることになりました。

選ばれたのは、1945年8月6日、広島に原爆が投下された日に広島郊外で生まれた19歳の坂井義則氏でした。当時、早稲田大学の競走部に所属していた坂井氏は、目指していたオリンピック選手にはなれなかったものの、開会式での大役を果たしました。

パラリンピックと日本

ルードウィッヒ・グットマン医師
©フォート・キシモト

ストーク・マンデビル病院（イギリス）の医師であったルードウィッヒ・グットマンは、第二次世界大戦で脊髄に損傷を受けた兵士を治療する際にスポーツを取り入れる方法を用いました。

ロンドン1948大会の開会式の日に、グットマンは病院内で16人の車いす使用者によるアーチェリーの競技大会を開催しました。この競技会が、後のパラリンピックへと育っていき、1960年にはオリンピックの開催されたローマで国際ストーク・マンデビル大会が開催されました（23か国・400名が参加）。この大会は、1989年のIPC設立後に第1回パラリンピックと位置づけられています。

そして1964年の国際身体障がい者スポーツ大会は、東京オリンピック直後に2部制で開催されました。第1部は、ローマ1960大会に続く国際ストーク・マンデビル大会であり、後に第2回パラリンピックと位置づけられました（21か国・378名が参加）。そして第2部は、すべての身体障がい者と西ドイツの招待選手による国内大会として開催されました（481名が参加）。

「パラリンピック」という名称は、東京1964大会で愛称として使われました。当初は車いす使用者を対象とした大会だったので、下半身まひを表すパラプレジア（Paraplegia）の「パラ」という意味が込められていました。

その後、トロント1976大会以降、車いす使用者以外の障がい者も参加するようになったことから、1985年に「沿う」、「並行」という意味のパラレル（parallel）の「パラ」と解釈されるようになりました。

2つのシンボルについて

オリンピックのシンボル

オリンピックの五輪マークは五つの輪が重なっています。これは世界五大陸（南北アメリカ・ヨーロッパ・アフリカ・アジア・オセアニア）を表しています。

全世界の人たちが平和の精神のもと、スポーツで手をつなぎ合おうと言う意味があります。

また青、黄、黒、緑、赤の色は地色の白を加えると、世界の国旗のほとんどを描くことが出来ると言う理由で選んだと、考案者であるクーベルタン男爵は書き残しています。

パラリンピックのシンボル

パラリンピックのシンボルは1989年のIPC設立後に制作され、リレハンメル1994大会から使用されました。

そして、アテネ2004大会から現在のシンボルに変更されました。このシンボルマークは「スリーアギトス」と呼ばれています。「アギト」とは、ラテン語で「私は動く」という意味で、困難なことがあってもあきらめずに、限界に挑戦し続けるパラリンピアンを表現しています。青・赤・緑の三色は、世界の国旗で最も多く使用されている色ということで選ばれました。

■ 東京2020大会マーケティングパートナー

2017年6月21日時点

東京2020大会は、IOCならびに東京2020のスポンサーシッププログラムに基づき、
大会運営等に不可欠な専門的ノウハウ、商品・サービス及び資金を提供頂いております。

ワールドワイドオリンピックパートナー

Coca-Cola / Alibaba Group / Atos / BRIDGESTONE / DOW / GE / intel / OMEGA / Panasonic / P&G / SAMSUNG / TOYOTA / VISA

東京2020ゴールドパートナー

Asahi アサヒビール / asics / Canon / ENEOS / 東京海上日動 / 日本生命 / NEC / NTT / NOMURA / FUJITSU / MIZUHO / SMBC 三井住友銀行 / 三井不動産 / meiji / LIXIL

東京2020オフィシャルパートナー

AJINOMOTO / Education First / airweave / kikkoman / Knt 近畿日本ツーリスト / JTB / cisco / SECOM / ANA / ALSOK / DNP 大日本印刷 / Daiwa House / TOKYO GAS / 東京メトロ / TOTO / TOBU TOP TOURS / TOPPAN / NISSIN / 日本郵便 / JAPAN AIRLINES / JR東日本 / MITSUBISHI ELECTRIC / ヤマトホールディングス / RECRUIT / 読売新聞 / 朝日新聞 / NIKKEI / 毎日新聞

中尊寺金色堂（岩手県）

鶴ヶ城［会津若松城］（福島県）

阿蘇山（熊本県）

仙台七夕まつり（宮城県）
写真提供：宮城県観光課

Photo Kyodo News

レインボーブリッジ（東京都）
©（公財）東京観光財団

高尾登山ケーブルカー 清滝駅（東京都）

渋谷スクランブル交差点（東京都）
©（公財）東京観光財団

浅草寺雷門（東京都）
©（公財）東京観光財団

スカイツリー（東京都）
©（公財）東京観光財団

小笠原諸島（東京都）
©（公財）東京観光財団

アメヤ横丁（東京都）
©（公財）東京観光財団

編集・発行

公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
東京都オリンピック・パラリンピック準備局

平成29年度登録（29）20号　（2017年8月発行）